身近な自然再発見

…人間と共生する昆虫たち…

▲フユシャク（メス）

9 奇人 変人 冬尺蛾（フユシャクガ）！

冬でも元気いっぱい活動するフユシャクというガが居ます。フユシャクは全国に35種が記録されていますが、なかにはユキムカエフユシャクなどと雪国のロマンを感じさせる名前も。今回はちょっと変わり者のガの話です。

まず、フユシャクが冬にだけ活動するのは、ほかのガにはまねのできない凄（すご）ワザです。たしかに冬は寒くてフユシャクには暮らしにくい季節ですが、そのかわり天敵の虫や鳥たちも活発に行動できません。なので、冬に活動して子孫を残す生き残り作戦は大成功と言えるでしょう。

ほかに変わっているのがメスの羽です。多くのフユシャクのメスには羽が有りません。いったん蛹（さなぎ）の中に羽の形が出来ても、奇妙なことに羽化までに消えるのだとか。

なかには羽が有る種もいますが、小さくて飛べない羽です。もっとも飛べなくても交尾や産卵は出来るのでフユシャクたちは何も困りません。

羽化したメスは桜の幹などに登ってお尻からフェロモンを出します。オスを呼び寄せて交尾をするのです。世の男性諸氏もフェロモンに弱いのはフユシャクのオスと同じDNAのせいでしょうか。

この先、白石川の土手でチラチラ飛ぶフユシャクたちの姿を見たら、寒い冬を乗り切る元気を分けてもらえるかも。

次回は、カメムシたちの集団的自衛権？のお話です

元 金小校長、昆虫教室（町教育委員会主催）講師 鈴木健司さん

さくらっきー♡

かがみもち

おしの ともこ作

大河原町観光物産協会HP上で連載中

http://www.oogawara.com

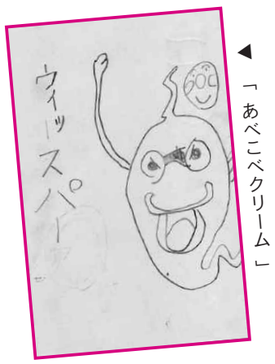
毎月6人に500円の図書カードをプレゼント！

だれでもイラストレーター

本名や住所がないと図書カードが送れないので掲載できません。ご注意！

◀「ブシニャン」

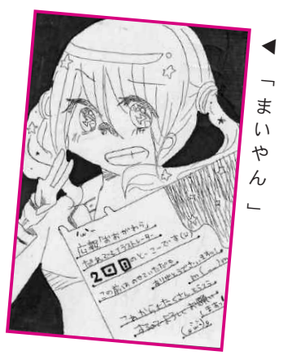
◀「ガチャピン＆ムック」



◀「あべこべクリーム」

◀「さき」

◀「ジャッキー」



◀「まいやん」

ヘルスメイト大河原の ベジfull キッチン

野菜たっぷり簡単レシピ

ホウレンソウのとろろ昆布あえ

平成26年度大河原町食育スローガン「家族で野菜のおかずをひと皿増やし」

【材 料（2人分）】（写真も2人分）

ホウレンソウ140グラム、とろろ昆布3グラム、だし割りしょうゆ小さじ2、白いりゴマ小さじ½

※割合は、酒1、かつおだし1、しょうゆ2で作ります。

【作りかた】

①ホウレンソウは洗って水気を切り、塩少量を加えた湯に根元から入れてゆでて水にさらす。根元をそろえて水気を絞り、3～4センチ長さに切る。

②とろろ昆布は細かく裂いて①と混ぜ、だし割りしょうゆをかけて、白いりゴマをちらす。

【データ（1人分）】

◆エネルギー／24キロカロリー

◆塩分／0・5グラム

旬のホウレンソウは甘味もあっておいしいです。とろろ昆布と混ぜていつもと違ったお味でいかがですか。食卓で使うしょうゆはだしや酢で割ったものを使うと、塩分控えめで「かけられる満足感」を得ることもできます。

レシピ担当

菅野 あさ子さん（新開区）

60歳からの楽しいクラブ活動

昨年度末よりスタートした「60歳からの」シリーズ。その第3弾となる今回はいよいよ作品づくりと発表を兼ねた取り組みへと進んでいきます。物語でいえば、佳境に入ったという頃合でしょう。そして、その新たな種まきのシーズンが、いま始まろとしています。

親しい仲間と熱く語り、過ごしたあの時間。芳しい“青春時代”。そんな青春の思い出を新たに作ってみませんか。参加者全員で作る楽しい“音楽劇”。60歳から始まる新鮮で冒険に満ちた体験があなたを待っています。人生を重ね、歩んできた皆さんだからこそ、心から楽しく歌ったり、踊ったり、演じれるはず。経験、未経験は問いません。新しい仲間たちと綴る新たな1ページ。心ゆくまでお楽しみください！参加をお待ちしています！

詳しくは、えずこホールまで。

日時：平成27年2月19～22日（木～日）
　平日▶午後2時～4時
　土日▶午前10時～午後4時30分
会場：えずこホール（平土間ホール）
対象：60歳以上のかた
講師：柏木陽（演劇家）、片岡祐介（音楽家）、青山公美嘉（演劇家）

問えずこホール☎52-3004 URL http://www.ezuko.com

わがまち文芸道場

ミニツリー飾り仮設のクリスマス　吾妻　文子
天と地の子らに光を大聖樹　石垣テル子
裏町や聖樹灯りに星の声　伊澤二三子
傾ける日差し追いかけ雪菜摘む　及川美沙子
のどぐろが取り持つ冬の母子旅　大久保和子
夜空より音なくこぼれ冬桜　日下　節子
寒鼻喪中のはがき重なりて　鈴木　純子
船宿の在りし所や冬菫　中野西範子
初雪や二円切手を買い足して　永野　シン
冬の月友はホームの人となる　藤原　恪子
眼下より津軽富士の嶺雪化粧　三塚　直樹
降る雪や猫と居留守を決め込めり　山家美智子
慰霊碑は夕日の中に返り花　遊佐　徹
母のため点す外灯雪催　佐藤きみこ

【大河原俳句会】